

# ハイスポット



## HIGH SPOTS BY CALEB WILES

(訳注：この本は、著者 Caleb Wiles のカードマジック作品集で、11 のトリックと1つの技法が解説されています。現象が面白い割には、技術的にはそれほど難しい印象はありません。ただ、プレゼンテーション面には注力する必要があるものが多いです。例えば「26！」も、その現象はとても強力ですが、技術的にはさほど難しくありません。ただし、折角巧妙なやり方をしているのですから、それをうまく「売る」努力をしなければなりません。出来るかどうか分からない困難な技法を練習するのと違って、トリックに自分なりに化粧をして仕上げるという楽しみがある練習、事前準備ですので、取り組みがいがあるでしょう。

おそらく読者のレパートリーに入るトリックが見つかると思いますので、お楽しみください)

## はじめに（本のタイトルの意味）

私がマジシャンになるにあたっては、プロレスリングから多くのことを学びました。と言っても、説明が要りますよね。

私は子供の頃にプロレスの大ファンであり、何時の日かリングに上がって私のお気に入りのスーパースター達と戦うことを夢見ていました。私のタイト姿は見栄えが良くないので、その夢が実現しなかったことは多分良かったのでしょう。しかし、私は長い間プロレスのマイナーリーグに所属して、リングアナウンサーやレフェリーとして活動しました。その期間に何人かのスーパースターを含む多くの人達と出会いました。そして、それらスーパースター達を見て、彼らがいかにして観客とやり取りの中で共感を得て行くのかを学んだことが、私をより良いマジシャンにしてくれたのです。

マジックとプロレスは意外に共通点があるのです。例えば、Michael Close はマジックの世界に、「worker」という言葉を持ち込みました。しかし、この言葉はプロレスの世界ではもっと早くから使われていたのです。プロレスの世界では「worker」とは、技を正しく使えるだけでなく、それらの技をいかに組み合わせて観客を楽しませるかを知っているパフォーマーのことです。それぞれの道を極めた人達は、プロレスが単にヘッドロックやボディスラムやパイルドライバー（といった技の）の話だけではないこと、マジックもダブルリフトやパスやスプレッドカルの連続体ではないことを分かっているのです。優れたレスラーやマジシャンは、技の使い方が分かっているだけでなく、何時どう使うべきかが分かっているのです。

プロレスラーは他の競技のアスリートよりも「堂々としていること」を求められます。「強い戦士」としてのリングでの演技には、彼らの印象が直接反映されるからです。すべての動き、ジェスチャー、発言、すべてが彼らの表現するキャラクターと密接に結び付いているのです。私は、マジックを演じる際にそのことを常に頭に置いています（なお、マジックでは、スティールの椅子で観客を殴ることまでしないので、助かりますが・・・）。ですから以下の頁を見れば分かるように、私のルーティンは私の好みとパーソナリティーに合ったプレゼンテーションによって展開されます。

また私は、プロレスの世界で他の独特な言葉にも出会いました；それが「HIGH SPOT」です。それは、1つの試合の中でのハイライト、エキサイティングな瞬間を表す言葉です。それは特別な投げ技かもしれないし、一番上のロープから相手の上に飛び降りる瞬間かもしれません。リング中央での「にらみ合い」かもしれません。しかし、バスケットボールなどの試合とプロレスでは、何処に「HIGH SPOT」の違いがあるのでしょうか？答えは簡単です。プロレスにおける「HIGH SPOT」は事前に計画されたものだという事です。ただ、優れたプロレスラーが行うと、その場で即席で行われたように見えるのです。彼らは、観客の反応を見ながら臨機応変に対処して行くのです。これが、プロレスを他のエンターテインメントと違うものにしているのです。観客はもはや「見ている人」ではなく、ショーに実際に参加しているのです。

こうしたプロレスの「HIGH SPOT」について、私が唯一相似性を見出すのがマジックです！マジックの「HIGH SPOT」がエフェクトの最後のクライマックスにだけあるのではないことを思い出してください。それは観客の強い反応を引き起こすビジュアルなチェンジかもしれないし、クリーンなヴァニッシュ、あるいはキーとなるセリフかもしれません。それらは毎回事前に計画しているものであり、中にはあるチャンスが来た時だけ使えるものもあります。例えば、客がカードをシャフルしている時にボトムカードが見ることが出来た時などです。プロレスと同じように、マジックも「即席、成り行きのように見える」というイリュージョンによって成り立っているエンターテインメントなのです。我々はマジシャンとして、すべてのマジックの「HIGH SPOT」をうまく見せなければなりません。

この本の中で、あなたのアクトの「HIGH SPOT」をいくつも見つけられることを期待しています。楽しんでください！

CALEB WILES

## OFFBEAT ACES

これはタイトルが示すように、変わった4Aの出現です。通常はAはカットした所から現れたり、マジシャンが一瞬で取り出して見せたりしますが、このエフェクトではAが他のプレイングカードから1枚ずつ創られて行くのです。私が長年演じてうけている変わったエフェクトです。

（現象）

マジシャンは、どの1組のプレイングカードにも人をだますためのメカニズムが内蔵されている、という話をします。デッキから3枚のジョーカーを取り出しながら、その例を見せようと言います。驚くことに、1枚のカードをジョーカーとミックスするたびに、そのカードがAに変わって行きます。そして最後に4枚のAがそろうのです。

—以下省略—

## RESWINDLED

このエフェクトは私が初めて外部に投稿したものです。「MAGIC MAGAZINE」誌2006年6月号のJoshua Jayのコラム「TALK ABOUT TRICKS」でしたが、間もなくPaul Harrisが彼の「Re-set」を作るのをアシストしたAlan Ackermanがラスベガスでこのエフェクトを演じたことを聞きました。それからまもなく、Paul Harrisが彼のDVDにこのエフェクトを「Re-set」のお気に入りのヴァージョンだとして収録したのを知りました。多くの有名なマジシャンが私のエフェクトを演じているのを知ることは、私にとって名誉なことです。

（現象）

4枚のJを客の手の下に置きます。マジシャンはJ以外の4枚のカードを取り出して、それを1枚ずつJに変えて行きます。しかし、指を鳴らすだけでマジシャンはそれらをまたJ以外のカードに戻してしまいます。

客は手の下のカードを見ると、確かに4枚のJが戻っています。しかし、その4Jも4Aに変化してしまうのです。

—以下省略—

## 26!

このエフェクトは、スライハンドでは出来ない現象をいかに「ずるさ」とサトルティーが可能にするかを示すものとして、私にとっては特別なものとなっています。したがって、現象は素晴らしいものでありながら、セルフワーキング的なものです。これにはスタックを使いますが、これは別なエフェクトを見せながらスタックすることも可能です（後記「ヴァリエーション」参照）。また、単にデッキスイッチをしても良いです。

### （現象）

マジシャンはデッキをシャフルしたら2つのパケットに分け、客に1つを取らせたらよくシャフルさせます。客がそうしている間にマジシャンは残りのパケットをファンにしてフェースを客に見せてこう言います；

「あなたはこれらのカードの並び順を今意識して覚えることは出来ないと思いますが、無意識のうちにシャフルに影響を与えているのです」

シャフルが終わったら、客に2つのパケットを好きな所からそれぞれ2つに分けてもらいます。驚いたことに、カットした所のカードはメイトカードになっています。次に、客に小さい数字を言わせて、各パケットのトップからその枚数だけ配り出すと、そのカードがメイトカードになっています。それだけではなく、各パケットはシャフルされたにも関わらず、カードの並びがメイトカードになっているのです！

## —以下省略—

## WORD PERFECT

優れたスタンドアップカードマジックというのはなかなかありませんが、特にこのエフェクトほど強力なものは少ないです。古い諺通り、これは「少ない手間で大きな効果」を得るものです。ギミックは作るのが簡単で、演じるのも易しいです。私は、このエフェクトは多くのマジシャンのレパートリーに加えられると確信しています。

### （現象）

マジシャンは、混沌の中にも秩序を見出すことが出来るかを試して見たいと言います。1人の客（A）にステージに上がってもらい、1枚のカードを選んでもらいます。次に、客席の1人の客（B）に後で客Aのカードを見つけるのに使うマジカルワード（魔法の単語）を言ってもらいます。客Bが「Rose（バラ）」と言ったとします。

客Aのカードをデッキに戻させたら、彼のカードの候補のカードを10枚前後のカードを抜き出します。そのカードを客Aに渡してシャフルさせ、残りのデッキはしまいます。

マジシャンはパケットを受け取ったら、先ほど決められたマジカルワードを思い出させます。そして、「R-O-S-E」とスペルしながらカードを1枚ずつ床に落として行きます。スペルの最後のカードを残

して、残りのカードはしまします。客 A に初めて選んだカードの名前を言ってもらいます。すると、マジシャンの手にあるカードが正しく客 A のカードなのです。マジシャンは最後に道具入れのケースから封筒を取り出しますが、中には文字が書かれた4枚のカードが入っており、並べると「Rose」となるのです。

## —以下省略—

### BLACKJACK BE QUICK

これはささやかな現象を大げさな手段で行うもので、例えてみれば、「ハエ」を殺すのに核弾頭ミサイルを使うようなものです。私は David Regal の「STAR QUALITY」(1987年) からヒントを得ました。彼はこのアイデアを、電話を使った賢いがやや手数が多いカードトリックに使っていました。

#### (現象)

マジシャンは、デッキをほぼ同じ枚数の4つのパケットに分けて、客に好きな2つずつのパケットでリフルシャフルしてもらいます。次に新たに出来た2つのパケットをまたリフルシャフルしてもらいます。

マジシャンは、世界中の誰よりも速く完璧な「ブラックジャック」の手を取り出して見せると言います。マジシャンはデッキを取り上げて、手から手へとトスします。するとマジシャンの手にはAとJが持たれており、完璧なブラックジャックの手が出来ているのです。

## —以下省略—

### LITTLE FELLA GROWS UP

(訳注：タイトルにある「FELLA」は「男」、「野郎」という意味であり、「LITTLE FELLA」は「小僧」といった感じでしょうか。後記(クレジット)の欄にも書かれていますが、このトリックは本書に先立つこと47年前に Harry Lorayne が発表した「LITTLE FELLA—BIG FELLA」というギャンプリングエフェクトからヒントを得たものであり、「その時から時が経って、そのトリックの『小僧』も大きくなったよ(grow up)」とオリジナルへの思いを込めて言っているのだと思います。もしかしたら、「小僧」は著者自身のこともかもしれませんね)

このエフェクトは、ポーカーゲームに強い関心がある一般客に対し演じるのに最適のルーティンです。彼らはカードの「いかさま」が存在することを知っており、また映画やポーカーについてのテレビショーなどで実際にそのテクニックを見ている場合が多いです。セカンドディールや HAND MUCKING などの知識がある人さえ、少なくありません。しかしながら、彼らはもちろん「Elmsley Count」や「Braue Addition」は知る由もないので、うまく演じればあなたが彼らの理解を超えた名人だと思う

事でしょう。

（訳注：「HAND MUCKING」は、手に特殊な持ち方でカードをパームし、その片手だけでテーブル上のカードを撫でるようにして取り上げる時に、パームしたカードをテーブルのカードの下に差し込んで取り上げたカードと一瞬でスイッチする「いかさま」技法です）

#### （現象）

マジシャンは4枚のキングをデッキのトップに置いて、デッキから2組のポーカーハンドを配ります。当然、それぞれの組に2枚ずつのKがあるはずですが、カードを開けてみると客の組に4Kが集まっており、マジシャンの組にはありません。もう一度繰り返すと、今度はマジシャンの組に4Kが集まります。最後に4Kはデッキの中に入れてしまい、客が新たなポーカーハンドを配ります。すると、マジシャンの組には3枚のKが集まりますが、客の組にはロイヤルフラッシュが配られているのです。

### —以下省略—

#### i DECK

もし私が1つだけカードマジックをやるとしたら、これを選ぶと思います。これは私のキャラクターに最も合ったものだからです。使うテクニックは新しいものではないですが、構成とプレゼンテーションによって客達の喜ぶものに仕上がっています。

#### （現象）

マジシャンは最新のコンピューター化されたデッキを取り出します。客にカードを選ばせたら、それを使ってデッキのコンピューターとしての機能のデモンストレーションをします。「F1 キー」を押してカードの行方を尋ねたり、「PAGE UP キー」を押して客のカードをトップに上げたりします。

「DELETE キー」を押すと、客のカードが消えます。

最後に、このデッキをいかにポーカーでの「いかさま」に使うかを説明します。客が「COPY キー」を押すと、客のカードのメイト3枚が直ちに現れるのです。

### —以下省略—